

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 31日

事業所名 ミルキーウェイキッズ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	2	適切である。近年は子どもたちの成長に伴って、その日の利用人数によってはスペースが狭く感じる時がある。車椅子や荷物の配置を考慮して支援を行っている。訓練室(課題部屋)は広いスペースを区切り、個室にするなど工夫して集中できる環境
	2	職員の配置数は適切である	4	0	例えば、利用人数に対するスタッフ数が少ない事もあるが、事前にスケジュール調整を行い、応援を要求するなど無理のない範囲で出来ている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	0	特性に合わせて個室(カームダウンスペース)を利用したり、トイレに手すりを取り付けたりと個性やバリアフリーに配慮した環境となっている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	0	どうしたら現場のスタッフ数で安全かつ円滑に業務が回せるかスタッフ間でも意見を出し合っている。毎日のスタッフミーティング時に情報共有し必要時には話し合いを実施している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	年に1度、保護者アンケートを実施し集計を県へ報告されている。その他、保護者からの意見や要望は都度スタッフ間で共有するようにしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	2	事業所向け自己評価表、保護者アンケートともに集計後、ホームページにて公開している。事業所評価は社内監査として年に1回、全スタッフが取り組んでおり集計後、県への報告も実施している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	0	正式な外部評価は実施されていない。定期的なコンサルテーションなどで外部講師が来られた際に頂いた助言を日々の業務に反映している。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	1	研修案内についてスタッフ間で情報共有を行っており、積極的に参加している。事業所内の研修案内の頻度も内容も適切で、それぞれのスタッフが知識を磨き、意欲を持って仕事に励むことができています。研修を受けたスタッフはレポートをまとめ、
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10	1	普段から利用者や保護者の要望や意向を聞き取ることを意識した関わりを行なっている。ニーズの吸い上げや対応すべき事案の把握に努め、保護者だけでなく利用者の立場にも立ちながら計画書に反映するようにしている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	3	昨年度よりコンサルタンドの講師に来て頂き、アセスメントシートをいくつか教えて頂いた。必要なシートを抽出し、かつ継続できる内容で来年度から本格的に使っていきたい。支援すべき内容が明確化でき、支援後に利用者の変化が目に見えて分かると、スタッフのやりがいにも繋がり、なにより利用者が快適に楽しく過ごせる事にも繋がると思う。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1	活動内容は療育スタッフがメインで考えているが、個性性を大切にしており、利用者に応じて提供の仕方を工夫しながらチーム全体で取り組んでいる。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1	なるべく季節の行事を取り入れるように努めている。また、天候やその日来ている利用者に応じて活動内容を変更したりと工夫して提供している。

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1	放課後や学休日の利用に関わらず、一日の計画を立案し支援に当たっている。学休日や長期休暇時は宿題や作業課題の頻度を増やしたり時間を長く設けている。必要に応じて歩行訓練やICT（視線入力・スイッチ機器）活用した活動などを計画している
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	10	1	利用者の個性を大切にしながら、視覚的構造化など工夫した計画を立案している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1	その日の昼にミーティングを行い、一日の流れを確認している。また必要な情報を共有している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	2	支援終了後の振り返りができなくても、申し送り事項があれば共有ノートへ記載したりグループLINEで情報伝達している。また、話し合いが必要であれば次の日の午前中などにミーティングの機会を設けている。振り返りが確実に出来ていない場合もある為、優先事項は特に忘れず振り返る必要がある。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	特記事項があればHUG（成長療育支援システム）に記載してスタッフ間で共有・振り返りが出来るようにしている。
	18	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10	0	定期的に実施できている。会議後や家族の希望があった際や利用者の状態が大きく変わった際など必要に応じて計画書の見直しを実施している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5	1	知識不足であるという意見もある為、今後事業所内で勉強会の実施を検討していく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	1	サービス児童発達管理責任者をはじめ、各利用者の担当スタッフが参加している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	9	0	症例として保健師等との関わりは無いが、必要時は関係機関との連携を行っていく必要があると思う。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	10	1	看護師を中心に行っている。必要に応じて主治医との相談連絡も行っている。医療的ケアが必要な児に関しては主治医からの指示書を1年に1回更新し、緊急時の対応含め医師の指示のもと医療的ケアを行っている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	2	保育園（幼稚園）在園児に関しては送迎時などに情報収集を実施している。必要であれば相談員を交えて連携を図りたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	2	移行支援で支援会議に参加し、情報共有を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1	他の療育施設やリハビリ機関からアドバイスを受け、統一した支援ができるように努めている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	7	現在は交流できていない。新型コロナウイルスの流行も落ち着いてきたため、今後は交流の機会を設けていきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	0	9	協議会の催しの際に時間帯や日程の都合が合わず、なかなか参加できないことも多い。今後とも調整して出席の機会を増やしていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	細かな情報でも保護者にとっては重要な内容である事が考えられるので、共有するようにしている。主に送迎時や保護者お迎えの受け渡し時にお伝えしている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	6	支援での気づきや話し合ったことをご家族へ伝達することもある。また個別支援会議の場で保護者と意見交換を行っている。相談事があった際は事業所内に持ち帰り、話し合い、結果を伝えるなどしている。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	1	利用契約時に契約書に沿って詳しく説明がされている。支援の内容に関しては会議の際や、日々の送迎の際に説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	1	主に個別支援会議の際に相談などを受けることが多い。内容に応じて更に関係者や精通するスタッフに話を聞き、多少でも何か良い案が提案できたりアドバイスができるように、と努めている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9	1	コロナも5類になり、今年ほ久しぶりに茶話会を実施した。保護者からの反響も大きく、また開催して欲しいとの嬉しい言葉も頂くことができた。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10	0	相談や申し入れがあれば、すぐには返事をせずまずは上司へ報告・相談を行う。その後迅速に話し合いを実施し対応するように努めている。相談内容、その返答に関してはスタッフ間で必ず周知している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	1	月に1度、活動内容や次月の活動予定をお知らせするためのお便りを発行している。インスタグラムやFacebookなどに活動の様子を載せたり、公式LINEで関連イベントの案内を行ったりして
	35	個人情報に十分注意している	9	0	入職時に個人情報取り扱いの誓約書を交わしている。写真は出来るだけ事業所携帯で撮影し、個人携帯で撮影した際は事業所携帯に送信した後すぐに削除している。また、SNSなどに写真を掲載しても良いか事前に保護者等に確認をとっている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	情報交換に関してはその日の様子などできるだけ分かりやすく伝達している。意思疎通に関しては利用者に合わせた伝わりやすい言葉選びを心掛けている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	7	近年は新型コロナウイルスの流行もあり、地域を招待しての行事は行えていない。今年度、久しぶりに保護者を招待した行事(納涼祭)が行えたので、今後はそういった行事を地域の方との交流の機会にも繋げていければと思う。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	1	各委員会を設置した上で、適宜マニュアルの見直しを行っている。しかし全ての場合に備えた実際の動きを訓練として実施はできていないところがある(防犯など)。火災や救急時対応(急変)の訓練は定期的に行っている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0	防災委員を中心に年に2回の避難訓練を実施している。非常食の管理なども地域防災対策委員会が行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11	0	虐待防止・身体拘束防止委員会を中心に、年2回研修を行った。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	10	0	必要に応じて個別支援計画書に身体拘束について記載。該当する利用者に関しては保護者に同意書にサインを頂き、実際にやむを得ず身体拘束を行った際は、記録と共に職員会議を行った。また、保護者に報告を行い、一緒に対策や今後の対応を考える機会にもなった。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9	1	主治医からの指示書に記載されている内容を各自確認し、支援に臨んでいる。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11	0	ヒヤリハット事例集は報告書を作成し、事例集として作成し、LINEで共有し、必ず周知している。重要事項は特に口頭にて報告。また月に一度のスタッフ全体会議で再度振り返りを行っている。